

議会報

飯南

いinan

- 02 6月議会報告
可決した主な議案／陳情
- 03 令和5年度各会計補正予算
繰越事業の報告
- 04 一般質問
- 10 採決の結果
- 11 友好交流都市訪問紀行
- 12 常任委員会報告／議会活動報告
常任委員会報告／全員協議会の議題
- 14 明日を拓く

第74号
令和5年7月20日



6月定例会を終えて

6月6日から16日までの11日間で開催

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、感染対策による生活の制限は概ね解除され、個人の判断に委ねられることとなった。3年余り続いたコロナ対策、そして政策においても大きな転換点を迎えている。同時に行動の抑制を伴った3年間のツケは、企業の経営基盤や戦略に陰を落とし、本町においても事業所の閉鎖や撤収といったリスクを内包させたことと間違いはあるまい。内需拡大、地産地消を推し進めるための施策など、その時々で必要に応じた政策を求めている。

今定例会では「元気回復券」の発行と「プレミアム商品券」の販売(総額4千万円余)、子育て世帯生活支援特別給付金(総額6百万円余)および電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金(2千3百万円余)を含む補正予算を可決した。

また、企業版ふるさと応援寄付金として新たに630万円が寄付され、総額830万円となった。有効活用を望む。

令和4年度からの繰越明許費が10億円余あり、さらに令和3年度からやむなく繰越した事業(事故繰越)も5億円余ある。これを含めた一般会計の総事業規模は90億円余となる。事業者が滞りなく事業推進できるよう、進捗管理を徹底する必要がある。



八丁蜻蛉(ハッチョウトンボ):赤名湿地性植物群落

令和5年度 各会計補正予算

定住促進対策事業440万円の増額、地域・人づくり事業620万円の増額、電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金支給事業2351万円の増額、新型コロナウイルスワクチン接種対策事業2233万円の増額など

一般会計 9735万円 増額

会計名	補正予算額	予算総額
一般会計	9735万円	74億2869万円
特別会計 介護保険サービス事業	▲519万円	3671万円
病院事業会計	▲1037万円	11億6821万円

繰越事業の報告

事業の進捗状況により年度内に事業が完了せず、やむなく繰越しとした事業についての報告があった。

会計名	繰越額	主な事業
一般会計 繰越明許	10億5949万円	・乳用牛生産振興事業 ・災害復旧事業
一般会計 事故繰越	5億3537万円	
簡易水道事業会計	1186万円	・水道管支障移転工事
下水道事業会計	1280万円	・下水道管支障移転工事



赤名湿地性植物群落

可決した主な議案

条例関係

飯南町農林業研修宿泊施設の設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定

承認

飯南町税条例の一部を改正する条例の制定など4件

予算

令和5年度飯南町一般会計補正予算(第2号)など3件

諸議案

農業委員会の委員の任命14件
財産(消防軽積載車)の取得など4件

報告

令和4年度飯南町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告など6件

陳情

小立神橋の欄干の改修整備及び架け替えを求める陳情

〔陳情者〕

川東自治会長 菅 龍昭

〔付託委員会〕

教育経済常任委員会

〔審査の結果〕

採択



小立神橋(八神)

一般 質問

令和5年 6月定例会

産官学連携協定の今後は

内藤 眞一 議員



Q 高齢者介護の多様化を

本町にある2カ所の特別養護老人ホームは、介護士不足により、定員に対し6〜7割の入居と聞いている。町内の他の福祉施設も介護士不足で困っている。

施設入所ができない人、住み慣れた自宅で老後を過ごしたい人に短時間介護が提供できないか。そのために、地域づくり協同組合を活用することは可能か。

A 施設協議会と一体で検討

町長塚原隆昭

介護人材の確保はできていない状況だ。人材定着は、介護職員へのアンケートにより課題が把握され、離職防止策が講じられ成果が出ている。外国人就労も徐々に進み期待している。

短時間勤務など、個々の事情を考慮した介護従事者の



雇用は行われている。

特定地域づくり協同組合への加入の意向はあるが、コロナ禍による福祉施設への出入り制限、短期的な対応に馴染まないという介護現場の認識により未加入の状況だ。

介護人材確保のため、施設協議会と一体となり検討していく。

Q どう活かす 産官学包括連携協定

令和2年11月、東京農工大学大学院、JAしまね雲南地区本部と本町で産官学包括連携協定が締結された。その後、コロナ禍により交流活動は停滞していたが、昨年より現地調査など再開されている。今後どのように進めていくのか。

また、この協定の仲介をされた増田アドバイザーが特許を取得されている「もみ殻培土」はどのように活用するのか。

A 事業化に向け 検討していく

町長塚原隆昭

連携協定は、農業を軸とした人材育成と産業振興、そして持続する地域の実現を見据え締結した。

東京農工大学大学院と上智大学の教授と学生が来町され、研究テーマの水と土壌の調査を継続実施され、結果の説明を受けた。さらに実態把握をしていただいた上で、大学の知見を教示いただきたいと思っている。

本町農業振興アドバイザーの増田氏が開発されたもみ殻培土は、特許を取得されている軽量培土だ。もみ殻培土と密育苗苗の組み合わせにより、作業効率のアップや生産コストは削減できるが、専用田植え機が必要になる。

本町としては、増田氏に指導助言をいただき、JA雲南地区本部とも連携し、事業化に向け検討を進める。



飯南高校生との意見交換

JAの支店統廃合に反対を

景山 登美男 議員



Q 関係人口の創出と拡大を

今後の定住対策には「関係人口」の拡大が求められる。町長の認識とこれからの展望は。

関係人口には、地域にゆかりがある人、地域に関心を持っている人、地域と関わりたい人がある。マッチング機会の提供にどう取り組むのか。

本町の出身者で結成されている出身者会の皆さんは、ふるさと飯南町の発展を願って活動しておられるが、現在の状況は。

町内で生活されている方から町外の同級生に、お住いの出身者会への加入をお願いしてはいかがか。

A 出身者会を柱に 拡大に努める

町長塚原隆昭

定住施策について一定の評価はいただいているが、UI



二十歳のつどい

三十路式

ターナー者を継続的に確保することは困難だ。

関係人口とのマッチングとしては、観光協会のイベントやふるさと納税を通じたファン、ふるさと応援住宅急便による情報提供、飯南高校卒業生会などで取り組んでいるが、今後も関係人口の創出と拡大に努める。

出身者会は、本町にとって大切な組織であり、大応援団だ。「二十歳のつどい」や「三十路式事業」などを活用し、加入を促進したい。

Q JAの支店統廃合に断固反対を

吉田、掛合、頓原のJA3支店については、令和7年2月を目前に金融業務を行わない「ふれあい店」に移行することが、県の理事会で決定したとの発表があった。

お金の出し入れはもとより、振込や送金、ローンなどの金融業務、火災共済や自動車共済などの共済業務を行う窓口がなくなる。

農業協同組合は、農業者を中心とした「組合員」により組織され、あくまでも組合員の生活を守り向上させることが目的の組織だ。

町長には、金融業務と共済業務を継続するよう、最後まで頑張ってもらいたい。町長の決意を伺う。

A 支店機能見直しの撤回を求める

町長塚原隆昭

3支店の機能見直しについて、JA地区本部長から報告があったことから、直ちに雲南市長と連名で再考するよう要望を行った。しかし、JAしまねとしては決定事項であり、再考の余地はないとの回答があった。

改めて、雲南市長や農政会議などの関係団体と情報共有、連携を図りながら、撤回を求めていく。



JALしまね頓原支店

一般 質問

令和5年 6月定例会

不登校児に第3の居場所を

戸谷 ひとみ 議員



Q 学習もできる居場所づくりを

教育機会確保法により、不登校の子どもへの支援は従来のような学校復帰を目的とせず、一人ひとりが進路を主体的に考え、社会的に自立することを目指す方向に変わった。

不登校の児童生徒の数を学校評価につなげてはいけないということを、私たちはきちんと理解する必要があります。中には、自らの意思で前向きに不登校を選択している子や、それを理解している家庭もある。

学校に行っていないでも、笑顔で過ごせていないのなら心配だし、学校に行っていないながらも笑顔で過ごせているのなら安心だ。その子が笑顔で過ごせる場所を、自分で選択することが大切だ。

子どもを見てくれる親族や知人のいない核家族で、経



済的に共働きが必要な場合やひとり親の場合、仕事を休んで子どもと一緒に家にいることができるだろうか。特に、ひとりでの留守番が心配な子どもには居場所が必要だ。不登校の子どもが行きたくなり、学びたくなったら学べる、学校でも家でもない、居心地のよい第3の居場所を作る意思があるか。

Q 防災訓練の総括を

4年ぶりに防災訓練が行われた。防災訓練は実際の状況に近づけて行うことで効果が上がると考える。

大規模災害時は携帯電話が使用できないことが想定されるが、先日の訓練では携帯電話を使っていたのではないか。

訓練直後だが、どのような課題が判明したのか。訓練のための訓練にならないことが重要である。



志々の避難訓練

A 課題に対応する

町長塚原隆昭

今回は、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）を踏まえた避難行動、自治区・自治会長・組長を中心とした避難場所の開設と避難情報報告、役場職員による災害対策本部の運営を目的に実施した。

庁舎と支所をインターネットでつなぎ対策会議を実施したが、被害状況・対応状況がリアルタイムで共有できないという課題が発生した。機材を充実しなくてはならない。しっかり検証し、内容の見直しも行う。

災害対策本部

Q フリースクールで児童生徒の支援を

町内小中学校で、不登校といわれる児童生徒の数は何人か。教育委員会、学校はどう対応しているのか。

不登校の児童生徒の学び方に変化があり、フリースクールを導入しているところがある。教育委員会はそのような考え方をしているのか。フリースクールなど、不登校の児童生徒を支援するための財政支援についてはどう考えるのか、町長に問う。

A 開設は困難

教育長大谷哲也

小学校での不登校は7人、不登校傾向の児童はいない。中学校では不登校は15人、不登校傾向の生徒は3人いる。本町では中学生の不登校・不登校傾向が多い状況だが、近年の傾向として、学習について行けないのが大きな要因になっていると報告を受けて

いる。教育委員会としては相談員を配置し、適切な支援ができるよう心がけている。

学校現場では、こまめな家庭訪問を行い、児童生徒や保護者との信頼関係を保つ努力をしている。タブレットでの補習も進めており、効果のある事例もきいている。

フリースクールを運営・維持するためには、安定的なスタッフの確保が必要で、必要性は認識しているが開設は難しい。

A 圏域としての研究に取り組む

町長塚原隆昭

近隣市町と連携して、対応や支援について調査・研究していく。また、国が動くようであれば、しっかり進めていく。

●他に原子力防災訓練の質問がありました。

A 既存の仕組みを充実させる

教育長大谷哲也

不登校の児童生徒と向き合っている家庭では「学校に行つてほしい」という気持ちや、「子どもに無理な登校刺激を与えるのはどうなのだろうか」といった心の葛藤や、様々な不安を抱えていることと思う。「不登校の子どものための居場所」というのは必要だ。

本町の既存の仕組みである「めだかの学校」については、今年度から保健福祉課に公認心理師である「子ども家庭支援員」と「子ども若者支援員」が配属されたことにより、専門的見地からの相談や、適切なサポートが可能になった。子どもたちのニーズに応じた学習支援というのも、少しずつできるようになっていく。



「ぶらっと」にて

また、社会福祉協議会が運営する「ぶらっと」についても、引き続き関係機関と十分に連携し、対応していきたい。飯南町にふさわしい「不登校の子どものための居場所」づ

一般 質問

令和5年 6月定例会

働き手確保と定住は両輪で

安部 丘 議員



「住民が主役の協働のまちづくり」として集落実態調査を実施し、令和2年度に全ての自治区で集落計画を策定された。資金助成として最大500万円の「飯南町みんなでつくる価値ある飯南暮らし創生補助金」も創設した。この計画が停滞していないか。

補助金の活用実績にも課題が見える。

活動されている地域には集落支援員が配置されており、推進力の差として現れている。停滞した活動を再活性化させるには、配置する地域の拡大が必要ではないか。

また、補助金も活用し難い。有効活用されるよう、交付要項の見直しを検討してはどうか。



集落実態調査の様子

Q 協働のまちづくり推進を

町長塚原隆昭

今は公民館単位で集落支援員を配置している。地域により状況や課題は異なり、一律に進めることはできないが、支援を望まれることも考えられる。集落支援員と連携し、状況を把握していきたい。集落支援員ありきの地域づくりとならないよう慎重に判断する。

助成金の実績は3地区団体に止まる。ハードルは高いが、公平に配る趣旨ではなく、交付効果も踏まえ判断する。

A しっかり取り組む

町長塚原隆昭

住宅の整備、雇用創出は移住・定住につながる重要な取り組み。引き続き精力的に事業展開する。昨年度の移住・

Q 働き手確保と定住促進の加速を

町長塚原隆昭

人材の確保は喫緊の課題で、定住促進と併せ進めるべき。本格化するアフターコロナ社会で移住者の獲得は一気に激化する。出遅れることなく進めてほしいが、ギアを変えた施策や意気込みが汲み取れない。

個々の価値観も多様化しており、町の魅力発信・情報発信は重要な要素。あらゆる手段を併用し、多角的・継続的に進めることが望まれる。不足する人材は、外部に依頼してでも動きをつくるのが大切。本町に求められるのは「挑戦し続ける姿勢」だと思いがいかがか。



地域活性化包括連携協定の締結式

定住実績は45名。本年度は更に積極的に展開していく。「アコメヤトウキョウ」との地域活性化包括連携協定は、同社のノウハウを最大限に活用できると期待しており、移住・定住の更なる促進、関係人口の拡大に繋げたい。

人材確保も本町に有効な制度を研究・検討する。挑戦する姿勢は、改めて背中を押していただいた。しっかり取り組む。

職員研修と採用方針は

安部 誠也 議員



Q 有休施設・土地の活用を

借地である赤名スキー場跡地の活用方法をどう考えているか。国産漆の生産拡大を望む声がある。スキー場跡地で生産できないか。

A 計画に沿って臨む

町長塚原隆昭

全ての公共施設を更新・保全するのは困難であり、利用見込みのない施設は廃止・譲渡する。スキー場跡地はリフトを撤去し、所有者にお返しする計画。漆は実績もなく難しい。



旧赤名スキー場

Q 職員研修と人材育成を

合併後の中途退職者の人数と退職理由および人事異動の方法や職員研修の状況を問う。また、専門性を有する職員の採用とその効果、今後の採用方針、外部委託による効率化について伺う。

年功序列が職員のやる気を阻害してはいないか。職員昇任試験制度を検討すべきではないか。

合併後の中途退職者の人数と退職理由および人事異動の方法や職員研修の状況を問う。また、専門性を有する職員の採用とその効果、今後の採用方針、外部委託による効率化について伺う。

A 人材育成は組織運営の要

町長塚原隆昭

定年退職27名、自己都合126名(内退職勧奨67名)となっている。退職勧奨が多く、その他は一身上の都合となっている。

自己申告制度を導入しており、異動の希望も確認している。

研修は、新規採用時と昇任時に実施しており、勤務年



飯南町役場

数や役職に応じた研修も設けてある。他にもメンタル研修、人権研修などがある。

本町では医療系専門職を募集しており、臨床検査技師、看護師、管理栄養士を採用した。今後は、薬剤師や保健師、社会福祉士を採用したい。

公共施設の管理・運営は指定管理を進めている。更に、住宅の入退去、修繕の管理を外部委託できないか検討している。

人事評価制度を導入しており、職員全員の面接と評価を実施している。昇任試験制度には慎重な検討が必要。

Q 少子化・高齢化対策の充実を

少子化対策の成果と今後の計画を問う。

本町独自の支援として、高齢者世帯にエアコン購入補助制度を設けてはどうか。高齢者に優しく、町内事業者の活性化にもなると思うが。

A 国の方針に基づき検討

町長塚原隆昭

出生数は、令和2年度25人、3年度22人、4年度25人で、年間目標30人には届いていない。令和6年度までは第2次総合振興計画後期基本計画を推進し、その後は国の方針に基づき施策を検討する。

高齢者の補助制度については、本町に適した事業を更に研究していく。



おおむら花菖蒲まつり会場

友好交流都市
長崎県大村市
2023年6月2日～3日

6月2日早朝、奥田副町長と榎議長をはじめ、観光協会関係者、町議会議員、職員15名を乗せたバスは、雨の飯南町を一路西へと進路をとり、友好交流都市長崎県大村市で開催される「おおむら花菖蒲

おおむら花菖蒲まつり

親善訪問紀行



まつり」親善訪問へと出発しました。

約7時間におよぶバスの長旅でしたが無事大村市に到着し、さっそく園田大村市長を敬訪問しました。出迎えていただいた関係者の人たちからは「青空も一緒に連れて来てもらった」と大変喜んでいただき、大歓迎を受けました。

翌日は「おおむら花菖蒲まつり」開場までの時間を、おおむら夢ファーム「シュシュ」や、長崎県立図書館と大村市立図書館が共同運営している「ミライon図書館」を見学し、昨年開通した西九州新幹

線の新大村駅を車窓から眺め、花菖蒲まつりの会場へと向かいました。

朝から晴天に恵まれた「おおむら花菖蒲まつり」は盛大に開催され、約10万株30万本の花菖蒲は、大人から子供まで多くの来場者の目を惹きつけ、いたるところでその美しさをカメラに収めている様子が見受けられました。

また、会場内の物産展では、大村市と姉妹都市縁組をしている秋田県仙北市が日本酒に稲庭うどん、兵庫県伊丹市は「清酒発祥の地」らしく日本酒と伊丹名物のおかき。そして友好交流都市の飯南町が軒を連ねてそれぞれ自慢の物産品を持ち寄り、祭りに花を添えています。我が飯南町は、物販販売の準備のため前日に先乗りしていた3人が、二福のそばと赤来高原リンゴを使用した奥出雲ワインなどを宣伝販売しており、どのブースも沢山の人が賑わっていました。

野外のイベント会場では、大村フラー大使の写真撮影会、野点や地元の舞踊、熊本城おもてなし武将隊のシヨ、猿回し芸などが賑やかに披露されていました。時は瞬く間に過ぎて帰路につく



おおむら夢ファーム「シュシュ」にて



ミライon図書館

時刻となり、参加者の皆さんはおみやげと沢山の思い出をバスに乗せ、イベント関係者の皆さんにお礼を述べ、手を大きく振りお別れました。

8月には小学校中・高学年が、大村市に交流ツアーに出かける予定です。本町にはない海や飛行場、新幹線に目を輝かせることでしょう。

採決の結果

[6月定例会]

議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	伊藤好晴	熊谷兼樹	内藤眞一	高橋英次	安部誠也	景山登美男	安部 丘	平石玲児	戸谷ひとみ
農業委員会の委員の任命(14件)	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
飯南町税条例の一部を改正する条例の制定	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和4年度飯南町一般会計補正予算(第10号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和4年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和5年度飯南町一般会計補正予算(第1号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
飯南町農林業研修宿泊施設の設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
財産(消防軽積載車)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
財産(ペレット堆肥造粒機)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
財産(5t級除雪ドーザ)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
町道の路線変更	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和5年度飯南町一般会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和5年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
令和5年度飯南町病院事業会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠

[陳情の採択結果]

小立神橋の欄干の改修整備及び架け替えを求める陳情	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
--------------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

○:賛成 ●:反対 欠:欠席





教育経済 常任委員会

委員長：熊谷兼樹 副委員長：安部誠也
委員：伊藤好晴 内藤眞一 高橋英次



総務厚生 常任委員会

委員長：景山登美男 副委員長：平石玲児
委員：早樋徹雄 安部 丘 戸谷ひとみ



財産(ペレット堆肥造粒機)の取得

〈審査意見〉

- ①一般競争入札を実施する場合、入札者が一人になることを避けるための努力を求める。
- ②脱炭素宣言をした町として、費用対効果だけに選択基準を置かず、脱炭素に資する機材の選択、事業の立案を求める。

令和5年度 飯南町一般会計補正予算(第2号)

【歳出】 全共出品対策事業 51万円

令和9年第13回全国和牛能力共進会(北海道)に向け、出品対策協議会への負担金増額。

全共出品対策も大事だが、和牛の生産基盤拡充を図らなければ、目標は達成できないとの指摘があった。

担当課からは、飼養戸数は減少したが、多頭飼育農家の参入があり頭数は維持できている。今後、後継者や新規参入者が和牛の飼育を開始しやすい環境を整備していくとの回答があった。

商業活性化重点支援事業 4054万円

元気回復事業第4弾を実施するための経費。

物価高騰が長期化し、家計への負担が増す状況に、町民の生活支援・経済対策の一助として、配布型元気回復券(一人5,000円)と販売型元気回復券(50%プレミアム)を発行する。住民生活と経済活動の活性化を目的にしている。

参加した商店が、元気回復券の現金化を早くできるよう求める意見があり、2週間に短縮しているとの説明があった。

町道頓原長谷線整備事業 810万円

沿線の法面(頓原中学校下)が一部崩落し、対策工事が必要のため、調査設計を業務委託する。

児童生徒の登下校路であることに配慮し、早急な対応を求めた。



陳情のあった小立神橋を視察

令和4年度 飯南町一般会計補正予算(第10号)

【歳入】 企業版ふるさと応援寄付金630万円増額により総額830万円

14社からの寄付金で、育児等健康支援事業・地域包括支援センター運営事業・定住促進対策事業などに充当し活用

令和5年度 飯南町一般会計補正予算(第1号)

【歳出】 子育て世帯生活支援特別給付金(ひとり親世帯)給付事業 340万円

低所得のひとり親世帯に対し生活支援として、児童一人当たり5万円を支給

子育て世帯生活支援特別給付金(その他世帯)給付事業 289万円

低所得の子育て世帯に対し生活支援として、児童一人当たり5万円を支給

新型コロナウイルスワクチン接種対策事業 1618万円

5月から実施している2,500人分のワクチン接種費用

令和5年度 飯南町一般会計補正予算(第2号)

【歳出】 空き家活用住宅修繕費 440万円

平成26年4月から高校寮の補完および地域交流スペースとして活用してきた空き家が10年の契約期間が終了したことにより、所有者に返還するため現状復旧する費用

地域・人づくり事業 620万円

宝くじ助成事業の採択による3団体(来島ビジョン推進会議、杉戸自治会、上赤名自治振興協議会)への補助金

電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金支給事業 2351万円

物価高騰が家計に与える影響が特に大きい低所得者世帯への給付金で、1世帯当たり3万円を支給

新型コロナウイルスワクチン接種対策事業 2233万円

今年の秋から冬にかけて実施する4,000人分のワクチン接種費用

全員協議会の議題

- 令和5年4月27日(木)
- ①食料・燃料等物価高騰支援特別給付金
 - ②新型コロナウイルスワクチン接種
 - ③新型コロナウイルス対応
 - ④次期不燃ごみ広域処理施設整備基本構想

- 令和5年6月14日(水)
- ①高齢者福祉ランドデザイン

- 令和5年6月15日(木)
- ①教育環境基本方針の答申案
 - ②ふるさとの森譲渡条件
 - ③次期ごみ処理施設整備広域処理への参加

議会活動報告 [4月～6月]

- 4 10日 議会広報常任委員会(紙面校正作業)
12日 議会広報常任委員会(紙面校正作業)
20日 議会運営委員会
27日 全員協議会
- 5 26日 総務厚生常任委員会
23～24日 全国町村議会正・副議長研修会(東京)
26日 教育経済常任委員会:学校視察
31日 議会運営委員会
(6月定例会の提出議案、日程ほかの協議)

- 6 1日 雲南地域議会議長会
2～3日 友好交流都市訪問(大村市)
6日 6月定例会:本会議(町長提出議案の説明、質疑、委員会付託)
9日 :本会議(一般質問)
12日 :委員会審査
13日 :委員会審査
14日 :委員会審査、全員協議会
15日 :委員会審査、予算特別委員会、全員協議会
16日 :本会議(委員長報告、討論、採決)
22日 議会広報常任委員会(議会広報紙編集作業)
28日 議会広報常任委員会(議会広報紙編集作業)
30日 雲南広域連合議会

「好き」を活かして地域に貢献

民泊&CAFÉ 星の宿り

前田 一光さん(頼原)

古民家との出会いと民泊を始めた理由は？

高校を卒業して飯南町を離れましたが、いつか戻って地元で貢献したいと思っていました。

役場の紹介でこの家を訪れたときに「広くて落ち着く



星の宿りからの夜空



お客様をもてなすオーナーの前田さん

い家だな」と感じました。夜にもう一度訪れると、街灯がなく見たこともないほど真っ暗で、虫が飛び交う自然と満天の星に感動しました。

私は人と話をすることが好きです。これを活かして民泊のお客様に島根県や飯南町の紹介をして旅行を楽しんでいただき、飯南町のファンを増やしたいと思いました。県外から戻ってきた飯南町出身者なので、旅行者と町民の両方の気持ちが変わります。町民にとってははなげない日常でも、旅行者にとっては貴重な体験だったりします。町民の方の感覚と旅行者の目線の両方を

持っていることが私の強みです。

蔵があったので、町民の憩いの場にしていただきたという思いから、カフェに改装しました。皆さんと話しができて本当に楽しいです。

星の宿りのおすすめは？

お客様を愛犬の散歩にお誘いしています。散歩をしていると地元の方が畑や田んぼに話したり、挨拶をしたり話したり。町民の皆さんは、お客様に温かく、方言交じりで会話をされますので、お客様はとても楽しんでおられます。

「蔵カフェ」は、ごぜんまりと



歴史を感じる古民家

した雰囲気、誰もがのんびりできる場所にしたと思っています。ランチの後のカフェタイムは、楽しい会話で笑い声が絶えません。



家をささえる大黒柱

これからやりたいことは？

飯南町は宿泊施設が少ないため、時々予約が重なり断わることがあります。せっかく飯南町を訪れたい旅行者がもらえるのに、泊まる場所を提供できないのはもったいなく思います。一方で町内には空き家が増えていますので、空き家を活用した一棟貸しの民泊事業(空き家の持ち主と星の宿りの共同運営)ができたらいなと思っています。

募集

「明日を拓く」で取り上げてほしい会社や個人、団体、行事やイベントなどの情報をお寄せください。取材に伺います。議会報の表紙に使う写真の募集もあわせて行います。自薦他薦は問いません。皆様からのご応募をお待ちしています。

《応募先》飯南町議会事務局 0854-76-2190

今月の表紙写真



「みんなの知らないものを発見するのが好き。自分が体験したことは話ができるし、お客様も喜んでくださる。面白そうなところに入っていきのが好きで、道があると『どこにつながっているんだろう?』と探検して裏道を見つけるのも好き。時間帯や天気によって、同じ場所でも景色が変わるので、こんな時に行ったらどうなのかな?と見に行きたくなるんですよ」。少年のようなまなざしで話してくださった前田さんからは、この町への愛があふれていました。